

2023年11月28日

2023年度第11回Jリーグ理事会後会見発言録

2023年11月28日(火)18:00～

Jリーグ会議室および Web ミーティングシステムにて実施

登壇： 野々村 芳和 チェアマン
窪田 慎二 執行役員
青影 宜典 執行役員
樋口 順也 フットボール本部 本部長
大城 亨太 クラブライセンスマネージャー
司会： 仲村 健太郎 広報部長

〔司会(仲村広報部長)より説明〕

本日開催いたしました第11回理事会後の会見を開催いたします。

〔野々村チェアマンよりコメント〕

理事会の内容は、後ほど広報から報告があると思います。大きなテーマとして、どこにどれだけJリーグとして投資をしていくことがJリーグの成長につながるかという大きな話をできるようになったのは、コロナ禍も含め、ここから伸びていこうという意味で、理事の皆様が目線もすごく高い、良い話し合いができたと思っています。

シーズンはJ1、J3が1節を残し、J2はJ1昇格プレーオフを残すのみとなりましたが、ここまでのコメントをさせていただくと、J1はヴィッセル神戸が優勝、J2はFC町田ゼルビアが優勝、J3はFC愛媛が優勝し、3チームとも初優勝、加えて2023JリーグYBCルヴァンカップのアビスパ福岡も初優勝ということで、初物づくしという感じもしますし、色々なクラブが頑張っていて成長している証拠にもなるのかなというところでは、リーグ全体ではすごく良いシーズンを過ごせていると感じています。

今週末、昇格をかけたビッグマッチもありますし、各クラブにとってホーム最終戦はすごく大事な試合になるので、良い締めくくりができるようにクラブとリーグと一緒に最後まで頑張っていきたいと思っています。

まだシーズンは終わっていませんが、総入場者数がコロナ前の2019年比で約98%になってきています。それだけ多くの方達に見てもらえたというのは嬉しいことですし、コロナの大変な3年間を経てそこまで戻せたのは、皆様も含め様々な方達の協力のお陰だと思っています。来年の話をするのは少し早いですが、来シーズンは今までなかったような過去最高の数字が出せるように取り組んでいきたいですし、そんな手応えもあるとお伝えしておきたいと思っています。

今日もAFCチャンピオンズリーグがありますし、ACLのチームは12月12日、13日まで試合があるので、すごく大変だと思いますが、日本を代表して頑張ってもらいたいです。

[質疑応答]

Q: シーズン全体のお話で、フットボールの内容面を上げていこうということで、シーズン移行含めやっておられると思います。今季のパフォーマンスは、それぞれの初優勝などありましたが、チェアマンとしてどう受け止められましたか？

A: 野々村チェアマン

何かのデータをもとに話すわけではないので感覚的なものになってしまっていますが、良い意味でJ1は上位のチームと下位のチームで今シーズンはあまり差がなかったと感じています。

各クラブ、海外に出ていく選手も含めた入れ替えに、どう強化としてアジャストしていくかということが、今まで以上に問われたシーズンで、今シーズンはどこが勝ってもおかしくないようなリーグ戦だったとJ1では感じました。

J2は最終節であのようなドラマが待っていたことを考えると、パフォーマンスのピークをどの時期に持っていけたかで、もしかしたら順位も変わっていたかというくらい接戦だったと感じました。

いずれにしてもチームを作っていくことは簡単ではないですし、強化に携わる方たちは、色々なことをもっと考えながらやっていかなければならないすごく難しい仕事だったと思いますが、結果が出たチームはその人たちがすごく良い仕事をしたのだということは間違いなく言えると思っています。

Q: シーズン移行の件で、先日実行委員会があり、12月14日辺りに結論を持ってくると思うのですが、改めて色々な課題をかなり細かくやってきて、年内に結論を出したいと言ってここまで来たと思います。結論までかなり近いのかなと思います。ここに至るまで、どんな気持ちか教えてください。

A: 野々村チェアマン

チェアマンになると決まった時からこの話は避けて通れないと思っており、どうなったら良いのかなと、雪国のクラブで社長をやっていた経験も含め、考えていました。

話し合いを始めていく中で、色々なステークホルダー、それぞれのクラブの方達の考えを聞くことがお互いにでき、すごく理解が深まったかなと思います。見えていなかった課題や日本のサッカー、Jリーグが抱えている課題をあらためて発見できたこの数ヶ月だったと思います。

結論は来月以降になると思いますが、すごく実りのある良い時間でした。Jリーグがシーズンを変えるということよりもっと大きな役割も再認識できたと思いますし、Jリーグが果たしていかなければならない社会的な役割も多くの皆様と足並みを揃えることができつつあることは良かったと思っています。

その中でシーズン移行がどういう決着になるのか、今は当然明言ができませんが、メディアの皆様にとっても、一つの方向性を見出すことができているのではないかと思います。繰り返しになりますが、すごく実りのある良い時間にはなっていると思います。

《決議事項》

1.2024 シーズンJ3クラブライセンス判定結果について

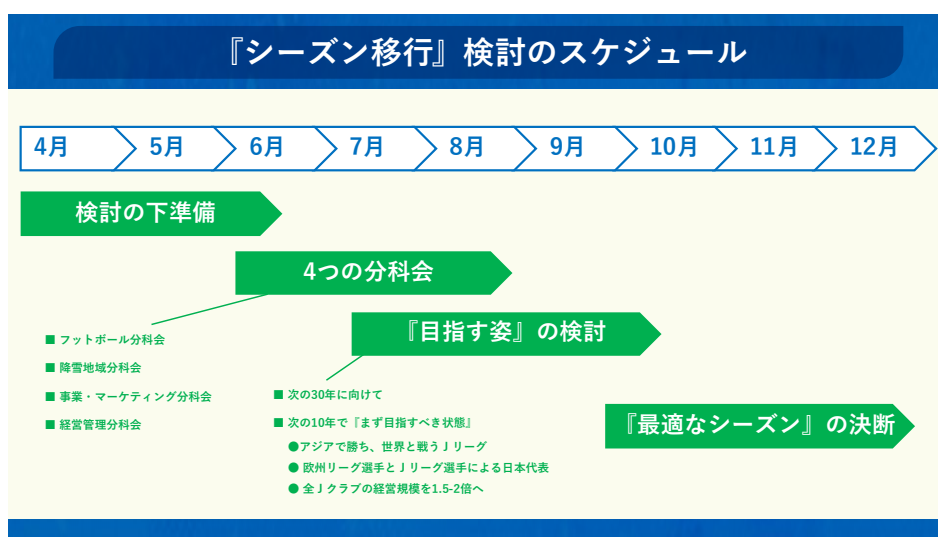
<https://www.jleague.jp/news/article/26568/>

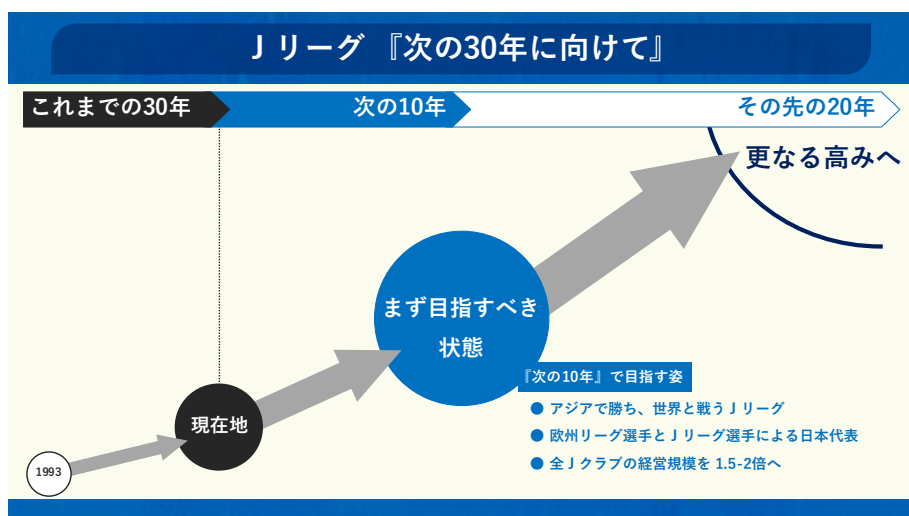
J3入会を希望するJFLのクラブについて、本日開催した理事会におきまして、2024 シーズンのJ3クラブライセンスの申請があり、9月の理事会で継続審議となっていたレイラック滋賀について、J3クラブライセンス交付を決定したことをお知らせいたします。このレイラック滋賀は9月理事会で施設基準未充足を理由に継続審議となっていました。仮設照明の設置によりスタジアム照明の照度基準を満たすことの確認が取れたためJ3クラブライセンス基準を充足すると判定いたしました。なお、同様に継続審議となっていた高知ユナイテッドSCは、J3クラブライセンス判定を辞退しましたので併せてお伝えいたします。今シーズンJ3クラブライセンス交付クラブの一覧は下記のクラブです。（*上記 URL のニュース参照）

今シーズンJ3クラブライセンス交付クラブのうち、JFLのリーグ戦における最終順位が2位以内のクラブがなかったため、Jリーグ入会要件を満たすクラブはありませんでした。そのため、今シーズンのJ3・JFLの入れ替え戦は実施しないこととなります。

J3への入会までの道のり、また入会審査の項目も再掲しておりますのでご参照いただければと思います。

〔樋口フットボール本部本部長より「シーズン移行検討の件」について説明〕





シーズン移行のこれまでの検討について、4月から本格的な検討を始めており、現在は「最適なシーズンがどちらなのかと決断の意見交換」をしている段階です。次の30年に向けて「まず目指すべき姿」ということで次の10年間をこういった状態を目指していこうと。その中で戦略は次の5つを掲げています。



シーズン移行で実現させることについて、これまでは「ACLと一致させること」や「夏の試合を減らすこと」などと並列に並べていただけだったのですが、今回改めてクラブと意見交換をする中で再整理を行いました。

一番重要なのが、Jリーグ自体を「世界と戦う舞台に変える」ということです。

『シーズン移行』で実現させること

① Jリーグを”界と戦う舞台”へ

高強度のプレーを”谷型カーブ”から”山型カーブ”へ変化させる。

Jリーグはこれまで”谷型のカーブ”で30年過ごしてきた。

”谷型のカーブ”はコンディションが落ちていくことを「耐える」シーズンを通す。

一方、”山型のカーブ”は「アスリートとしての高みに挑戦していく」シーズンを通す。この違いを何シーズンも積み重ねることによって、アスリートとしての到達点は変わる。

また、本来はコンディションが最高潮に達するシーズン中盤において、現在のJリーグは猛暑期間にあたることで高強度のプレーが困難になっている。

「Jリーグでプレーすれば世界基準のプレーができる」。

「Jリーグでプレーすれば日本代表として世界と戦える」。

「Jリーグでプレーを続ければアスリートとして成長ができる」。

Jリーグを”世界と戦う舞台”とすることで、Jリーグ全体の価値の転換を目指す。

② 欧州の移籍マーケットとの一致

- 海外移籍の際の移籍金収益
- 欧州からの選手・監督の流入
- シーズン中の有力選手の離脱を防ぐ

③ ACLシーズンとの一致

- ACLで勝ち、クラブW杯で世界と戦う
- 国際大会での賞金

④ 猛暑での試合数減少

- 6-7月のオフ
- シーズンオフから準備をして迎え夏月

インテンシティのカーブが、Jリーグが谷型でヨーロッパは山型になっているとこれまでお示してきました。

例えば、いまのままのシーズンでサマーブレイクを取って低いところを休んで、低さを改善するというのも大事なのですが、それと同じかそれ以上にカーブの形が大事なのではないかと考え、意見交換を行なっています。谷のカーブを山に変えることが重要なのではないかと考えています。

これまでJリーグは谷型のカーブで30年間過ごしてきました。谷型のカーブというのは始まってからコンディションが落ちていくことを耐えて、耐えて、耐える、というシーズンを通していくことになりません。逆にシーズンが始まって自分がどれだけの高みを目指せるかというところで日々鍛錬を重ねて、どういうところに到達できるかということを目指す山型のカーブ。アスリートの方からは、これを何年も繰り返し過ごすことによって、アスリートとして到達できるところが大きく変わるのではないかとご意見をいただきました。

またアスリートからだけではなく、学術的に運動生理学の専門家の方にもアドバイスをいただき、実際にシーズンを変えることによって今期待しているようなことが実現できるのではないかとコメントをいただいています。

本来、シーズンが始まって3、4ヶ月くらいのところでコンディションが最高潮に達するところで、今は猛暑に当たってしまっている状況をやはり改善しなければならないと思っています。

Jリーグでプレーすると世界基準のプレーができる、Jリーグでプレーすると日本代表として戦える、世界と戦える、Jリーグでプレーするとアスリートとして成長ができる、そんなプラットフォームにJリーグ自体を変えていくことが非常に大事なのではないかと考えています。

資料の2番、3番、4番はこれまでご説明してきた点ですので詳細説明は割愛いたします。

『シーズン移行』に対する選手会意見（11月8日）

シーズン移行について、日本プロサッカー選手会（PJFA）においても、理事会、またJリーグ全60支部の訪問を通じて検討を進めてきました。2023年11月6日（月）、JPFA臨時総会/臨時大会を開催し、シーズン移行に関するPJFAの考え方を決議しましたので、ここで公表させていただきます。

これまでの検討の中で、この議論は日本でのシーズン開催時期の最適化の問題と考えております。会員選手から最も多く寄せられた意見は、ファン、サポーターの皆さまにもっとハイレベルな試合をお見せしたく、日本の夏が厳しい気候になる中でも、年間を通じて試合クオリティを維持したい、ということでした。ACLや欧州シーズンと揃えることも意義があると考えております。

一方で、雪国対策を懸念する意見も出ております。Jリーグからは、これまでの12月から2月のシーズンスケジュールをベースにした案を検討されている旨説明を受けています。今後、12月または2月の試合が増えていく際に、ファン、サポーターの皆さんの観戦環境など、懸念される点がカバーされるのか継続した協議が必要と考えております。また、日本サッカー界の将来のため、雪国のサッカー振興を考えた施設整備などもFAやJリーグに要望してまいります。その他、シーズンスケジュールや移行期につきましても、いくつか課題は残っていると考えております。

以上のことから、シーズン移行に関し、雪国対策などの重要な課題について、引き続きFAやJリーグと協議することを前提に、JPFAとして納得できる解決策が見込めるのであれば、基本的に賛成と考えております。今後、実現のために、前向きに議論を進めていきたいと思っております。

皆様ご存じかと思いますが、選手会(JPFA)の意見が11月8日にwebで公開されておりますので、ご覧いただければと思います。選手会事務局や吉田会長とは定期的に意見交換を行っていましたが、選手会幹部の皆様も60クラブの支部の訪問を通じて多くの選手とも時間をかけて意見交換をいただきました。ファン・サポーターの皆様にもっとハイレベルな試合をお見せしたいというのが一番多く寄せられた意見で、そのためにACLやヨーロッパのシーズンと揃えることにも意義があると感じているとのご意見をいただいております。

一方で雪国の対策を懸念する意見も多くあるということで、今後雪国のサッカー振興を考えた施設の整備などもJFA・Jリーグに要望してまいりますというコメントをいただいております。

雪国対策など重要な課題について、引き続きJFA・Jリーグと協議することを前提に、JPFAとして納得できる解決策が見出せるのであれば基本的に賛成と考えていますという意見表明をいただいております。また週明けに選手会と意見交換をする時間をとらせていただきます。

『シーズン移行』で実現させること

① Jリーグを”世界と戦う舞台”へ

② 欧州の移籍マーケットとの一致

③ ACLシーズンとの一致

④ 猛暑での試合数減少

選手が
良いプレーを
できる環境

フットボール
水準向上

ACL優勝
・
クラブW杯
出場

代表選手
増加

移籍金収益
拡大

国際大会の
賞金獲得

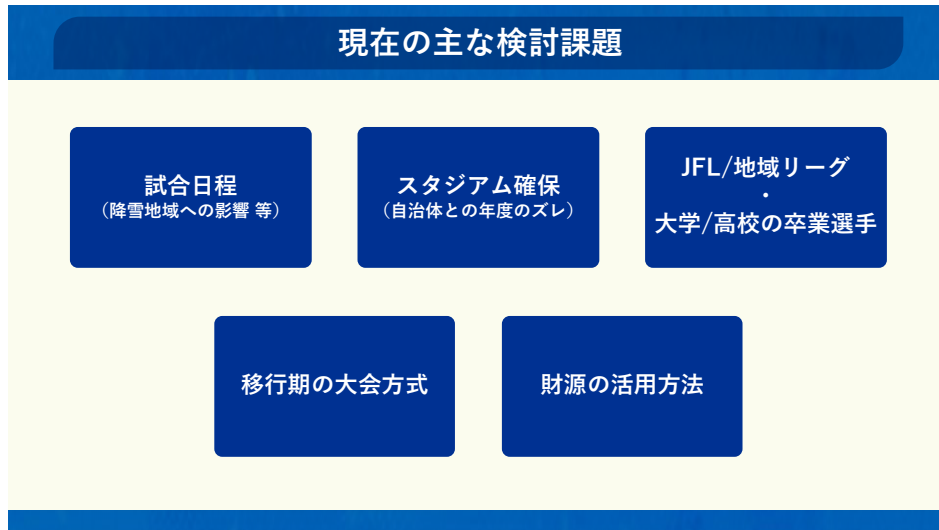
放映権など
リーグ売上の
拡大

ファン・サポーターの熱狂

パートナー・メディアへの価値提供

地域への貢献

先ほどの緑の 1、2、3、4 によって何を実現させるかということなのですが、選手が良いプレーをできる環境、フットボール水準の向上、国際大会でしっかり勝っていくこと、代表選手を増やしていくこと、移籍金の収益を拡大する、国際大会の賞金を獲得する、放映権などリーグの収益も伸ばしていく、そしてそれが最終的にはファン、サポーターの熱狂やパートナーやメディアの皆様への価値提供、地域への貢献にもつながっていくのではと考えています。



これまで多くの懸念もございましたので、現在の主な検討課題について 5 点に整理をしています。試合日程の件、スタジアムの確保の件、JFL・地域リーグ・大学・高校の選手の件、移行期の大会方式の件、財源の活用方法の件です。

まず試合日程につきまして、これまで案 A と案 B をお示していましたが、今回案 B' を新しくご提示しています。

新たな案『案B'』

これまで『案A』 『案B』 の2案で検討を行ってきた。

- 案A：12月3週頃まで実施→2月2週頃から再開
- 案B：12月1週頃まで実施→2月3週頃から再開

過去の公式戦実績を踏まえ、新たな『案B'』を設計

- 考え方：『案B』をベースとして、これまで実施してきたシーズンの実績から逸脱しない。
- 案B'：12月2週頃まで実施→2月3週頃から再開

【過去10年の2月・12月開催】

年	大会	試合日
2020	YLC	2月16日
2023	J1・J2	2月17日
2022	J1・J2	2月18日
2020	J1・J2	2月21日
2021	J1・J2	2月26日

年	大会	試合日
2023	J3・JFL入替	12月16日
2019	J1 FPO	12月14日
2019	J1 FPO	12月8日
2019	J3	12月8日
2018	J1 FPO	12月8日
2013	J2・JFL入替	12月8日

*2月のリーグ戦はJ1の全開演日の日付。*コロナ禍（~2020シーズン）の2月3週目の開催は含めていない。
*中立地開催は含めていない。*2023シーズンのJ3 JFL入替戦は、開催した場合の日付。

案Bは12月の1週までだったのですが、天皇杯を除いた過去のJリーグの公式戦、リーグ戦やプレーオフの実績を踏まえて案B'を作っています。過去10年に絞り2月の試合や、12月の試合の一覧を参考に記載しています。原点を辿ると1993年はニコスシリーズの最終節が12月15日あたりまで実施されていたり、チャンピオンシップが1月に開催されていました。今年は最終的にJ3・JFLの入れ替え戦は実施されませんが、実際に実施する場合は12月16日。ここ10年で考えると、J1も参入プレーオフ、昇格プレーオフを12月14日に実施していたようなケースもございます。従って、12月2週まで実施をして、再開は案Bと同じ2月3週頃にする案を案B'として全クラブにご提示しています。

案B'：降雪地域クラブの『アウェイ連続』の影響

案B'	ウィンターブレイク				2月			
	10月1週	10月2週	10月3週	10月4週	2月3週	2月4週	2月5週	2月6週
札幌		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
新潟		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
仙台		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
秋田		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
山形		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
いわき		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
金沢		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
八戸		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
磐城		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
福島		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
松本		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
長野		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
高山		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ
鳥取		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ

*試合日程シミュレーション Ver.2 (7月)の際の、クラブの自己申告に基づいて

- ▶ 『シーズン移行しない場合』と比較し、
ウィンターブレイク前に『アウェイが+1』となるクラブが発生。

(上図は)アウェイの連続がどうなるかというのですが、7月に試合日程シミュレーションを作った際に、各クラブにどの週だったらホームで試合をできるかできないかを自己申告いただき、そちらをベースにしています。案Aでは12月3週、2月の2週を使っていたのですが、ここが案B'ではなくなります。

アウェイの連続はこの図のような形になるのですが、シーズン移行しない場合も2月3週に開幕しますので、2月3週以降のアウェイ連続はシーズン移行しなくても起こるものです。シーズン移行しない場合に比較して、シーズン移行した場合は、アウェイ連続がプラス1増えるクラブがいくつかあり、そのプラス1もウィンターブレイクを挟んだプラス1になりますので、シーズン移行するとアウェイ連続が異常に多くなるということはないかと認識しています。

J 3 試合日程案（現状のタタキ）

▼シーズン移行しない場合の試合日程案

▲シーズン移行する場合の試合日程案

【試合日程案（現状のタタキ）について】

- 今後、また様々な詳細を詰めていく必要がある状況のものです。
- 国際試合の日程は、未確定のものを想定している状態を含みます。
- モデル：J3リーグ 38節 / YLC 1回戦～3回戦 / 天皇杯 1回戦～3回戦 / ACL不参加

平日 土休戦 休戦 休戦

※注：オンラインファンタジー

かなり詳細なものになるので細かい説明までは割愛させていただきますが、J1とJ2、J3それぞれの試合の日程の詳細をお出ししています。表の見方としましては、上がシーズン移行しない場合の日程案、下がシーズン移行した場合の日程案で、下が 2026-27 シーズン、2027-28 シーズンの 2 シーズン分ございます。その上に、3 月なら 3 月、4 月なら 4 月と一致する形で、2026 シーズン 2027 シーズン 2028 シーズンのカレンダーのたたきを比較でご覧いただけるようになっています。それぞれの月の左側の青が平日、平日の場合も祝日だと赤になっています。右側を土日で並べています。大会のマークはそれぞれご確認いただければと思います。右下に注釈を書いています、ACLエリートの日程やFIFAインターナショナルウィンドーの日程も加えています。

これは色々な調整もまだ済んでいないたたきの状態なので、その前提でご覧いただきたいと思えます。まずお出ししているモデルとしては、J1リーグでACLに参加していないクラブ、ACLに参加するクラブは紫のところACLがありますので、紫とリーグ戦が重なった場合、予備日でリーグ戦を行なうこととなります。

ルヴァンカップは決勝戦まで、また天皇杯も決勝までいくということを想定したモデルになっています。J2です。J2については、ルヴァンカップは 3 回戦まで、天皇杯はラウンド 16 まで行った場合を想定した試合日程を書いています。J3については、ルヴァンカップを 3 回戦まで、天皇杯が 1 回戦から 3 回戦までという形にしています。当然ルヴァンカップ、天皇杯も勝ち進むと後半にここに書いていない大会が入ってくるようになります。空欄の場所に大会が入ったり、場合によってはリーグ戦が抜けるところもありますので、その場合は当該クラブのリーグ戦を予備日で開催することも発生します。

詳細をご説明すると 1～2 時間かかりますので、まずはご覧いただいてまた別の機会に意見交換させていただきたいと思えます。まずは詳細をご提示したという段階です。

これまでのスタジアム確保の過程

2026年			2027年											
10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

前の
シーズン

当該シーズン

① ②③

- ① 試合日程の確定 ▶ リーグ戦38節の試合日程が確定
- ② シーズン終了（=翌年のリーグ編成が確定）後に、H・Aの調整開始
この時点で各クラブ『ホームNGを5試合』を申請＝33節分のホーム確保が必要
- ③ 『日程くん』を稼働させ、H・Aの組み合わせが確定＝19節分のホーム確保

スタジアムの確保につきまして、懸念がございました。これまでのスタジアム確保の過程ですが、2027 シーズンを例に取りますと、前のシーズンが終わる直前、1ヶ月前の①で、試合の日程、リーグ戦 38 節分をどこに置くかを決めています。現在、ちょうど今この 11 月のタイミングで来シーズン 2024 シーズンのリーグ戦をいつ開幕していつ終わって、どこに入れるかをもうじき確定することになります。②のところのシーズンが終わり、昇降格やACLクラブが確定したタイミングで日程くんには様々な要件をインプットします。その時に各クラブから地域のイベントや、他のスポーツの事由でホームスタジアムを使えない場合、5 試合までホーム NG を申請いただき、各クラブ 38-5 の 33 節分を抑えていただくということが原則になっています。そして、日程くんを実際に稼働させて、ホーム、アウェイの組み合わせが確定すると実際ホームで使用する 19 節分が確定します。12 月末くらいのタイミングで 19 節分どこを確保するかが確定するというのがこれまでの流れです。

シーズン移行した際の懸念

2026年			2027年										2028年							
10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6

前の
シーズン

当該シーズン

① ②③—H確保：19節（=確定）
H確保：33節

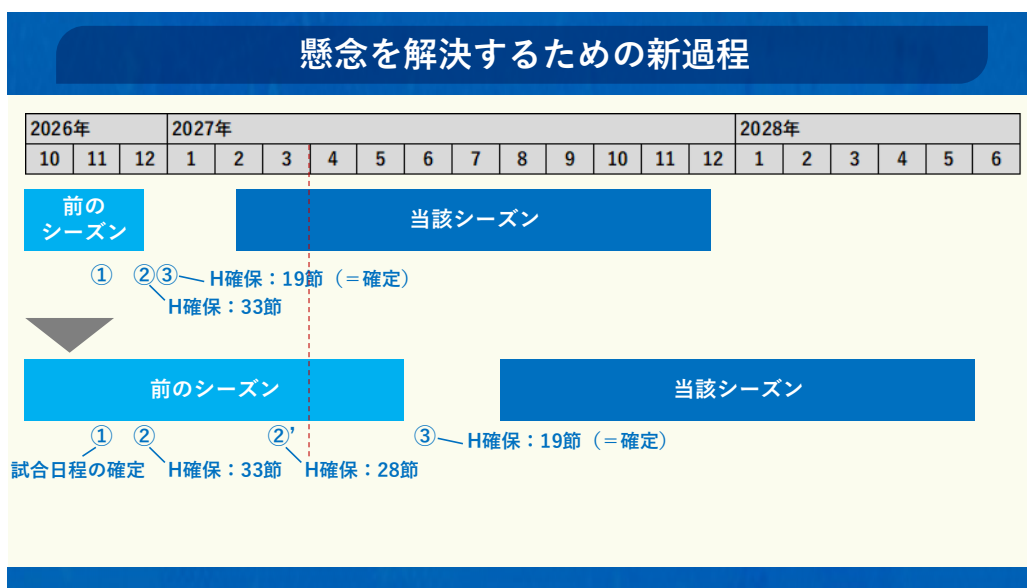
前のシーズン

当該シーズン

① ②③—H確保：19節（=確定）
H確保：33節

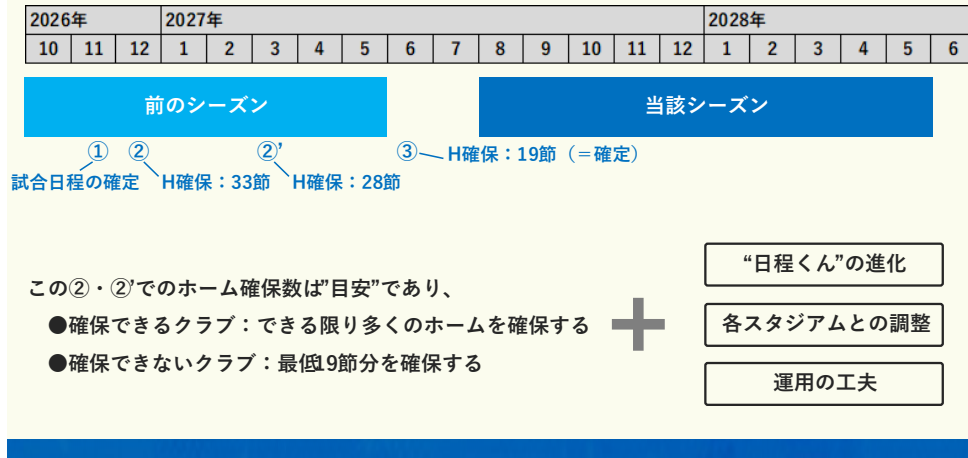
- ▶ 4月からの年度がスタートしているため、事後の確保が困難。
事前に確保しようとすると、33節分の確保が必要となり、他団体へ影響。

これがシーズン移行をしてこのままのステップでやっていくとどうなるかと言いますと、前のシーズンが終わるのが5月末～6月頭になりますので、この時点で33節分もしくは19節分が確定しても、行政年度は4月から始まっていますので、もう他の団体が抑えていて抑えられないとか、もしくは4月より前に抑えておくとした時にどこがホームになるかわからないので33節分抑えておかなければならないとなると、33-19で14節分使わないところも抑えないといけないので、他の団体へ影響が発生したり、指定管理になっているところはその分他団体への販売機会を失うこととなります。ここがネックになっている状態でした。



今回、懸念を解決するために、試合の日程を組む新しいプロセスを考えています。前のページと比較してご覧いただきたいのですが、試合日程38節分の確定を今まで通り、前年の11月、シーズンが開幕する10ヶ月前くらいに決めてしまいます。この38節をどこにおくかは、基本的には国際カレンダーが定まっていれば定められるものになります。今までと同じ②のタイミングでホームNGを5つ申請いただいて、ホームが33までに絞られるタイミングですが、ここのタイミングで日程くんを1回まわそうと思っています。全クラブ、昇降格の影響はあるけれど、38節あるうち、この何試合は確実にアウェイになるので抑えなくて良いという試合数を少しずつ増やしていこうと思っています。

更なるアップデート



ここで日程くんを回して終わりではなく、前のシーズンの戦況が変わることによって昇降格の可能性が絞られていくこととなりますので、都度日程くんを稼働させて、徐々に確保すべきホームの数を減らしていくというプロセスを辿っていきたくと考えています。

目安としてこの段階では 33 確保してください、3 月の段階では 28 確保してくださいというようなことを一つの目安にしようと思っています。ただ、当然、昇降格が決まるのは 5 月になりますので、そこで最終的にもう一度日程くんを回して確定させます。19 節分が確定するのは開幕の 2 ヶ月前になってしまいますが、早い段階から少しでもホームを確保する数を減らしていこうと考えています。

繰り返しますが、33 や 28 というのは目安です。実際に全クラブから、直前になっても 38 抑えられます、というクラブもあれば、あるクラブは今まで通り 12 月のタイミングで 19 まで絞ってもらわないと抑えられないというクラブもあります。実際にJ1、J2、J3各 20 クラブあるなかで、それぞれのリーグのクラブの状況を全クラブ分、確認をしました。

例えばJ1で、このタイミングで 19 に絞ってもらわなければならないというクラブが 3 クラブ程度、最後まで 38 確保できるというクラブも 3 クラブくらいあります。また、このタイミングで 30 はおさえられる、このタイミングで 35 おさえられるというクラブがいくつかあり、それをベースに日程くんを回しました。結果、それくらいのクラブの申請の数であれば、実際に成立する試合日程を組める見込みが高いことが分かりました。スタジアムを確保できるクラブはできるだけ多くのスタジアムを確保いただいでおく、確保できないクラブは今までと同じタイミングで 19 試合のホームを確定させる、という形で試合日程を組んでいこうと思っています。従って、19 試合が 5 月まで固まらないからスタジアムが確保できないという懸念についてはクリアできる見込みであることが分かっています。

当然 100%はなく、今の日程でも、例えば、ホーム NG が全クラブ 1 試合だけでも、「全クラブ第 1 節が NG」となれば試合日程は組めないわけです。今後も日程くんをより抜本的に進化させてもっとスピーディーに様々な解ができるように変えていくとか、各クラブからいただいているシミュレーションもこれからスタジアムの皆様にご協力にご調整をいただき、もう少し各クラブがスタジアムを確保で

きる状況に変えていくこと、またスタジアム確保ができるクラブが損をしないように努力をして少しでもたくさん確保できたクラブがしっかりと恩恵を受けるような個別の運用の仕組みも必要かと思っています。現段階でも成立する見込みができていますし、シーズン移行する場合、まだ2年くらいの時間がありますので、こういった3点をしっかり進めていくことにより、問題なく基本的にホームスタジアムで試合をする試合日程が組めるのではないかと考えています。

一方で、これまでは全部が決まってから色々な情報をインプットしていましたので、ACL出場クラブはなるべくACLを戦いやすい日程にしたり、集客の面でもなるべく祝日やGWには集客が見込める試合を組むということも日程くんは計算していたのですが、そういったことが少しずつ制約を受けていくことになると思います。今までよりも失われていく部分もあると思いますが、最低限、しっかりとホームタウンで全クラブが試合をしていくことが担保できることが見込まれる状況だということをもっと報告させていただきたいと思っています。

JFL/地域リーグ ・ 大学/高校の卒業選手

■ JFL/地域リーグ

- Jリーグがシーズン移行した場合、JFLもシーズン移行を実施する方向で検討中。
- 地域リーグにおいては、Jリーグ・JFLのスケジュールを考慮した上で各地域で適切なリーグスケジュールを検討中

■ 大学/高校の卒業選手

- 原則、これまで通り『冬のウインドー（=1-2月頃）』での加入とする方針。
- 保有枠ルール（*現在、ABC契約の抜本改革を検討中）によっては、新人選手の特別枠を設定。

過去の説明と繰り返しになりますが、JFLはJリーグがシーズン移行を決めたあとに、決議をすることになると思いますが、基本的にJリーグと一緒にシーズン移行をするということを念頭にご検討いただいています。

一方で地域リーグにおきましては、例えば北海道や東北エリアは降雪期間、試合ができない期間はJリーグ以上に長いので、JFLとの昇降格のつながりに支障が出ない範囲で、地域ごとにそれぞれ適正な試合日程を組むのがいいのではないかと意見交換をしていると伺っています。今、それぞれの地域でどのようなスケジュールがいいかを組んでいただいて、最終的には地域CLなどをどこに置くかも含めて検討を進めていただいているところです。

大学、高校の新卒の選手につきましては、大前提として契約はいつでも自由にできますが、一方で基本的にはここで加入させましょうという原則を示させていただいています。原則としてはこれまで通り、冬のウインドーで加入とする方針にしたいと思っています。今までは開幕前のタイミングの冬でしたが、これからはシーズン中の冬に加入することを原則としたいと思っています。例えば JFA・Jリ

リーグ特別指定選手の制度もありますし、今後、大学連盟、高体連の皆さまとも議論させていただく中で、本当に特別な選手に関しては何か違う制度を設計することもあるとは思いますが、まずは原則として1月、2月に加入していただくということにしたいと思っています。

保有枠のルールについては、今でいうとA契約25名などいろいろなルールがありますが、そもそもABC契約も抜本的に変えようと思っていますので、2年後、3年後にどのようなルールになっているか、まだ分かりません。もし、何かのルールがあったとして、期中に新人の選手が何名か入ることを特別枠として設けることも併せて設計する必要があることを明記しています。



移行期の大会につきましては、まだまだ議論が必要という状態で、クラブとも意見交換が行われている状態です。12月6日の実行委員会でもここは多くの時間をかけて議論をすることになると思います。最速で2026—2027シーズンからと設定していますので、移行期が2025年と2026年の前半と捉えており、1シーズンと0.5と考えるのか、1.5シーズンと考えるのか、大きく2パターンの

考え方と考えています。1.5がいいのか、0.5がいいのか、リーグ戦の形でやっていくのか、特別大会がいいのか。0.5と捉えたときに、昇降格ありがたいのか、ない方がいいのか。様々な観点があります。選手観点、ファン・サポーター観点、ご支援いただくステークホルダー観点、クラブ経営観点、どの観点かによって本当にバラバラになってきます。今、いくつかの案をクラブに出しているのですが、もっと違う案がないかも含めてまだ意見交換を行っている状態です。

ちなみに、0.5と呼んでいますが、実際は、開幕を今と同じ2月中旬とすると、5月末に終わることになり、実質3ヶ月ぐらいしかありません。J1は、ACLもありインターナショナルウィンドーもあると、1週の19試合やるのもギリギリ入らないのではないかとといったカレンダーになるので、そういうことも踏まえて大会方式を考えることが必要です。

財源の活用例

① キャンプ費用増額分の支援

- シーズンオフ（夏）/ ウィンターブレイクでのキャンプ費用
- シーズン中に『ホームタウン外でキャンプを行いながら試合をする際』のキャンプ費用

② 施設整備への支援

- スポーツが行えるエアドーム
- 降雪エリアのスタジアム対応
- 降雪エリア以外の暑熱対応など



最後は財源の活用方法です。財源についてどんな支援ができるのかについて意見交換を行っています。大きく2点、まずキャンプの費用が間違いなく増額する部分になると思っています。各クラブのシミュレーションによると平均すると全体で1,500万円ぐらい、案A、案Bで変わってくるのですが、合計すると10億円弱ぐらいの増額があると思っています。ここを永久的に支援するものではないのではという意見をクラブ側からもいただいています。従って、その増額分の何割かを何年間かサポートする案を今、考えています。

またサッカーだけではなくスポーツを行える、子どもたちがスポーツを楽しめるような環境を作っていく必要があると思っています。こういった施設整備への支援につきましても、Jリーグ、JFAの数十億円、もしくは100億円規模の財源の中でどれぐらいの金額を1(キャンプ費用増額分の支援)と2(施設整備への支援)に使っていくか。当然ですが皆様のご想像通り、2を徹底的にやろうとすると、100億あっても、200億でも足りないことになると思います。これだけではなく、目指す姿を実現させるための戦略を推進していくためにはもっともっと多くの費用が必要になってくると思いますので、全体でどれぐらいの費用をどのようにかけていくのかということも含めて、全体像も描きながらこう

いったことも詰めていこうという意見交換を本日の理事会でも行っています。

本日のご報告をまとめますと、「シーズン移行で実現すべきことの再整備を行っている」という点と、「シーズン移行する際の懸念 5 点について現状の解決策や進捗の状況」をご報告させていただいています。

〔質疑応答〕

Q: 前回の会見で、12 月の理事会での決定方法をどうするかを決めるといった話があったと思いますが、本日の理事会でその点については。

A: 樋口本部長

意見交換していますが、まだ定まっていません。例えば財源の活用一つ取りましても、エアドームとありますが、これを一つ作るのにいくらかかって、ランニングコストがいくらかかってということなど、まだまだこれから検証や調整を進めなければいけない事項があります。従って、それぞれの項目についてどこまで固まっていれば決議できるのかということも、いろいろな観点でご指摘をいただいています。もう一度、我々の方で持ち帰って、12 月 19 日の決議に向けて、次の 12 月 14 日の実行委員会と、12 月 6 日には臨時の実行委員会もありますので、そこでも示しながら決めていきます。

Q: それでは、12 月 19 日の理事会で決めるという日程は変わっていない。

A: 樋口本部長

現時点ではそこを目標に進めています。

Q: どのような方法かはともかく、60 クラブの決議も取るという話があったと聞いています。それも変わらないですか。

A: 樋口本部長

そこも変わらずやる想定で考えております。

Q: スタジアム確保の件で、これまで通りの時期に 19 節分しか確保できないというクラブには、これまで通り、12 月末ぐらいにホームの 19 節分は確保してもらうということでもいいですか。

A: 樋口本部長

実際にそうするかは別ですが、「そうしたとしても試合日程は作れるということを確認できた」ということです。当然、そのクラブは 19 節、ホーム試合が確定できるとなると、公平性という観点でも問題があると思いますので、例えば、その 19 節も希望としてもらうのではなく、我々がきちんと日程く

んを回して、ランダムにやった結果をお戻ししたり、当然、19 以上確保いただくような取り組みも進めていただくことも必要だと思っています。『そうやる』ではなく、そうしても答えが出ることを確認できたということです。

Q: 確認ですが、B' 案の降雪地域クラブのアウェイの連続の影響ということで、これは皆さん、納得して、これだけアウェイになってもいいという了解のもとでのプランニングなのでしょうか。

A: 樋口本部長

まず 2 月 3 週以降のアウェイ連続については、シーズン移行しない場合でも起こります。それに対してウインターブレイク前に+1 増えることは実行委員会でご説明させていただいています。これで納得しますか？という聞き方をして、全クラブが納得しますと完全な確認をした状態までではないのですが、異論は実行委員会ではいただいている状態です。12 月 6 日の実行委員会の時間もありますので、そこでも意見交換すると思います。

Q: 降雪地域のクラブについてお聞きしたいのですが、案 B' にある 14 クラブ、いわき FC を除けば 13 クラブだと思いますが、このクラブが降雪地域と Jリーグが認定されているクラブなのでしょうか？ また、降雪地域の認定基準、積雪量なのか分かりませんがあったら教えてください。

A: 樋口本部長

公式に降雪地域のクラブというものを認定しているものは、現在の意見交換においてはありません。こちらについては各クラブに自己申告いただいています。例えば、申告していただいたクラブに対して、いや、ここは降雪地域ではないからアウェイ指定はダメですといったコミュニケーションは行っていません。今後、施設のサポートなどを行っていく際に、その地域に対してどこまでどう認めていくのかは、おそらくなんらかのルール設計が必要だと思っています。一方で施設整備についても皆さんは降雪地域だけをイメージされるかもしれませんが、我々は逆に南の地域での暑い中でもスポーツができる環境を作っていくことも大事だと思っていますので、順番、優先順位はしっかりと作らなければなりません降雪地域に限らない、暑熱対応も考えていきたいと思っています。

Q: 前回の実行委員会で来月また賛否を問うという話でまとまったと思うのですが、先ほどの説明をお聞きして、これから議論をもっと進めていくという話が多かったと思いますが、賛否を問うことに対して反対等はなかったのでしょうか。

A: 樋口本部長

現状はいただいております。

Q: 議論がある程度煮詰まったという認識で来月を迎えようとしていると Jリーグは認識していると

ということですか。

A: 樋口本部長

出来る限りしっかりとした決断ができるように情報を集められればと思っております。一方で 100% の情報は集められないことが多くあると思います。出来る限り様々な情報を集めたいと思っておりますし、それを 12 月 19 日の理事会までに決断ができるように進めたいと思っております。最終的には、こういう論点が詰まっていないとか、こういう情報が足りていないからまだ決断するべきではないという結論に 12 月の時点でなることも十分あり得ると思っておりますが、現時点ではそうならないように、様々なものをスピーディーに進めたいと思っております。